

大きな憧れをいだく大草っ子

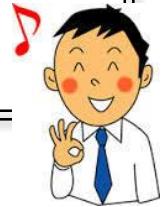


大草小学校だより「憧れ35」

第13号 平成27年12月4日(金) 校長 有谷孝彦

学校づくりの合い言葉

「つなげよう！笑顔と学び たくましさ」



心が一つになった瞬間！

日を追うごとに寒さが増し、如何にしてすまし顔で暖をとるかを思案している今日この頃です。皆様におかれましては、益々御健勝のことと存じます。

さて、12月2日に「大草発表会」がありました。子どもたちは、それぞれの学級ごとに、これまでの学習で得た表現力を駆使して、演劇や歌、踊りなどを発表しました。保護者や地域の方々を招いて行うこの企画は、日頃少人数で学習している子どもたちにとって、大勢の前で自分を表現するたいへん貴重な機会です。長い台詞を覚えて演じたり、声をそろえて合唱したり・・・緊張の中にも、やり遂げようとする子どもたちの懸命さに感動を覚えました。おそらく子どもたちも、やって良かったという達成感を味わったものと確信しています。



私は、今回の発表会の中で「心が一つになった瞬間」を感じました。それは、大草太鼓の演奏の時です。子どもたちがたたく太鼓の音とその意識が、一か所に集中しては、四方八方に広がっていく感覚を覚えました。太鼓をたたいていない1年生や大草小学校を卒業していった子どもたちの心までが一つになったようにも感じました。私たちは、「つなぐ」教育を引き継いでいきます。



すむかしら
この木は御用が

そうして何べんまわったら

花が咲く

それから芽が出て

葉が落ちて

その実が落ちて

お花が散って実が熟れて

金子みすゞ

木

「子どもを観る」の再確認

先日、講演会で貴重な話を拝聴しましたのでお伝えします。

学校の主人公は？それは、もちろん子どもたちです。私たち大人は、主人公である子どもたちを、ひと括りの平均値（基準）で観ていないでしょうか。「個」である子どもたちを単眼で観てはいないでしょうか。子どもには、「見える姿」と「見せる姿」があります。子どもたちの心の声や隠れた資質等を観るために、私たちは、子どもの実像をしっかりと観る努力をしなければなりません。そのためには、あらゆる角度から多面的に観たり、状況をかえて多くの視点で観たり、また、遠くから近くから観たりするなどして、複眼的に本来の姿を観る必要があります。観ることができた時に、初めて個に応じた指導ができるのです。

この話は、長崎県教育センター所長、長崎県教育庁教育次長を歴任し、御退職なさった山崎滋夫先生から御指導いただいた内容です。教職員に向けた講話ではありますが、子どもを取り巻く一番身近な環境である私たち大人のすべてに向けられた内容でもあったと思います。

子どもから信頼を受けていますか？子どもと向き合う時に一人で抱え込んで悩んでしまうことはありませんか？子どもを「個」としてとらえ、対応していますか？子どもに基礎学力を付けるのと同様に、大人にも基礎教育力が必要です。大草地域には、教育の総合力を発揮する風土が根付いています。学校と家庭・地域が「教育の共同体」として、地域の子どもの育てていきましょう。



★12月の主な行事予定

- 9日（水） 人権集会 歳末募金活動～11日
- 12日（土） 大草塾（持久走大会 餅つき）
- 14日（月） クラブ活動
- 16日（水） 給食費集金日～18日
- 22日（火） 給食終了
- 24日（木） 第2学期終業式



学校だより等については、大草小学校HPに掲載しておりますので御覧ください。